

清水 淹

<今回>267回目 2019年10月7日(月)16時~18時 601号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p96 いわゆる景初3年鏡

<前回>266回目(19-9-27) 出席者 9名

資料(19-09-27-1)前回のまとめ(清水)

-2)三浦半島バス旅行(清水)

A 報告 榛葉、白石氏が欠席。前回の誤植問題 安藤氏調査 原典は柏梁臺 2か所の誤植があった。

1. 朝日新聞刊(単校本)p65、2行目柏染臺、7行目、柏染臺 両方とも染が誤植

2. 角川文庫本 1固目は梁で正 2固目は染で誤 1固目は訂正されている。

3. 朝日文庫本(清水テキスト)p79、4行目梁で正 9行目は染で誤

4. ミネルヴァ新刊本 p55、9行目 梁で正、13行目染で誤(朝日文庫の版を移しているから当然)

ついで高山氏よりp84、9行目弓偏に耳(はづ)の文字は弓の両端の弦を止める場所のことで戦闘力の無い飾りもの。礼儀として用いられた弓(日本の弓は上が長く、下が短い)

大墨氏よりp85、の五時は祭祀用に設定した5つの田畑の意味 また

(C)の読み下し文は「天王」は「帝王」に修正のこと、天の序を承くるより大はない、天の序を承るに郊祀より大は莫しと「天の承くる」ではなく「天の序を」と続けることが正解と指摘

B 資料 -2)三浦半島バス旅行紀 池子遺跡は始めて、海蝕洞穴の研究者中村勉氏の講演は洞穴は生活感はなく、工房のような作業跡地、半完成品が多く出ている。三浦の文化は漁業具は北海道から太平洋海岸伝いに来ているが洞穴絵などは北部九州からきていて近畿文化の影響はないと言いながら最後に磐井の乱で九州が平定され、負けた九州の豪族たちが関東などの開拓に駆り出されたものとの見解を出したのはいただけない。

懇親会9名 津多屋17096円(2000・8) -1096円

C 読書 p86 いわゆる魏晉鏡と上代音韻 より

1)魏晉鏡 小林行雄の三角縁神獸鏡の同範鏡理論(5枚上限) 中心は京都府椿井大塚山古墳出土の32枚の三角縁神獸鏡は17種22面、同範鏡を持っている。全国19基の古墳(この時点では黒塚古墳は未発見)にある事を示した。

2)先師富岡謙蔵氏の先行研究の上に論証を加えた。三角縁神獸鏡は魏鏡である。近畿政権の配布または下賜と考えたい。富岡の準拠した銘文は河内国南河内郡の国分出土のもの(通用名なし)。重要な文字は銅出徐州、師出洛陽、王父王母。徐州の地名の使用期間220年から422年、師の諱266年から429年、王父母の盛行から420年から422年。第2論文で王父母の盛行は羅振玉の拓本より漢末から始まっていると知ったので220年から266年と拡大した。第3論文では神獸鏡は後漢末には存して三国時代から南朝六朝時代に渡ると考え、文字使用の年限からその思想の盛行を三国時代とした。

3)富岡理論の弱点 師諱説、三國志では師の文字は頻繁に使われている。司馬師は皇帝にはなっていない。師の文字は諱としていない。年代決定力を失った。

次回日程 19-10月25(金) 15時から18時 601会議室

-11-11(月)16時から18時 601会議室

-11-25(金) 15時から18時 1503号室